

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">~2022</div> <h1 style="margin: 0; padding-left: 10px;">地域包括ケアシステム</h1>	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	4単位	R	1・2年
	担当教員	三浦 剛	

■授業のテーマ

「我が事丸ごと」地域共生社会づくりへと展開してきた地域包括ケアシステムの概念を検討し、その新たな目的下での地域包括ケアシステムの意義を探り、具体的な展開を概観する。

■授業の目的

社会福祉研究、実践に携わるものとしての視点から、現在、その構築と実践が期待されている「地域包括ケアシステム」について、その概念を深く理解し、その構築方法を修得し、また、システムを自ら実践に使うことができるよう、高齢者分野にとどまらない全世代に対応する地域支援システムについて研究する。

■授業の到達目標

- ・「我が事丸ごと」地域共生社会時代の、地域包括ケアシステムを定義づけ、その意義を説明することができる。
- ・地域包括ケアシステムによる支援の実際を知り、自らが把握している福祉課題解決への応用を考えることができる。
- ・地域包括ケアシステムの構築方法を学び、実践的に、その過程を説明することができる。

■授業の概要

戦後、措置制度化で施設入所中心の保護的な福祉制度から、ノーマライゼーションや自立生活の理念の導入、急速な人口の高齢化という課題を背景に、在宅サービスの法定化、契約制度への改革とともに地域福祉の推進と舵を切ってきた。

同時に、人口の高齢化は、保健医療ニーズを大きく変化させた。これらの問題を解決するために必須と考えられるのが地域ケアシステムである。当初保健医療と介護の統合から始まったが、すべての世代を対象に、また障害や高齢にとどまらず、生活上の困難を対象として、その問題を地域で解決していこうとする支援システムが必要とされてきた。

「我が事丸ごと」地域共生社会づくりが謳われる現在、この地域包括支援システムがその役割の多くを担う事は間違いない。この授業では、地域包括ケアシステムを切り口に、すべての人を受け入れる社会作りである、ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）までを視野に入れる。

最終的にはできるだけ具体的に、システムがイメージされ、その構築方法や、それをういた支援の実際を考えられるように進めたい。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	地域包括ケアシステムが必要となった背景①	憲法第25条・措置制度・施設福祉・国民皆年金、皆保険	わが国の社会福祉が国家責任の下、措置制度をしき、入所施設での保護を中心として始まったことを学修してください。
2	地域包括ケアシステムが必要となった背景②	人口の高齢化・福祉ニーズの変化・ノーマライゼーション理念・自立概念の拡大・在宅福祉	ノーマライゼーションや自立生活理念の漸進と同時に、急激に進行する人口の高齢化に、これまでの福祉システムでは対応できなくなってくる過程を理解してください。
3	地域包括ケアシステムが必要となった背景③	保健医療ニーズの変化、介護ニーズの増大	人口の高齢化に伴い、保健医療ニーズが変化し、介護ニーズが増大する過程と、介護保険制度導入について学修してください。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
4	地域包括ケアシステムが必要となった背景④	医療と介護の一体化、ケアマネジメント、地域医療体制	介護保険制度、医療計画の下で進む医療と介護の一体化とその方法であるケアマネジメント及び地域医療体制(圏域の考え方)を理解してください。
5	地域包括ケアシステムの概念①	介護保険制度下での地域包括ケアシステム、「税と社会保障の一体改革」	これまで見てきた介護保険制度下での地域包括ケアシステムの概念が、税と社会保障の一体改革の流れの中で対象を限定としない地域包括支援体制へと展開していく過程を理解してください。
6	地域包括ケアシステムの概念②	「我が事丸ごと」地域共生社会づくり	2017年厚生労働省から発表された改革工程をきっかけに、障害者福祉、生活困窮者支援などを「我が事丸ごと」とらえ、住民一人ひとりが共生社会を作っていく、そのための方法として地域包括ケアシステムを理解してください。
7	地域包括ケアシステムとソーシャルワーク	社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン) 自立支援、利用者本位、環境調整とエンパワメント	ソーシャルインクルージョンにつながるソーシャルワークの展開を確認してください。
8	地域包括ケアシステムとコミュニティワーク	コミュニティワーク(地域福祉)	コミュニティワークの歴史的展開もふまえ、地域づくりを目指すコミュニティワークと地域包括ケアシステムの関係性を把握してください。
9	地域包括ケアシステム構築の方法①	ネットワーク、ネットワークづくり	地域のネットワークとは何かを理解し、ネットワークづくりの方法を理解してください。
10	地域包括ケアシステム構築の方法②	量的調査、グループインタビュー	ネットワークづくりの基礎となるデータを得るための調査を、量的把握(アンケート)、質的把握(グループインタビューなど)でおこなう事を理解してください(調査法の文献も参照)。
11	地域包括ケアシステム構築の方法③	地域ケア会議、地域福祉計画	実際に地域支援システムを構築するための方法として、地域ケア会議や地域福祉計画がどのようにおこなわれるべきかを知ってください。
12	地域包括ケアシステムによる支援①	地域包括ケアの制度、専門職	地域包括ケアシステムによる支援の制度と、それを用いる専門職とはなにか、把握してください。
13	地域包括ケアシステムによる支援②	医療、保健、介護予防	事例を用いてこれらを目的の中心においたシステムを具体的に理解してください。
14	地域包括ケアシステムによる支援③	虐待防止、権利擁護	事例を用いてこれらを目的の中心においたシステムを具体的に理解してください。
15	地域包括ケアシステムによる支援④	インクルーシブ教育、意思決定支援	事例を用いてこれらを目的の中心においたシステムを具体的に理解してください。

■レポート課題

課題 1	「我が事丸ごと地域共生社会づくり」に至るまでの、わが国の支援制度の展開をふまえた上で、地域包括ケアシステムの今日的意義と概念についてまとめなさい。(4,000字程度)
課題 2	地域包括ケアシステムの構築方法について説明し、地域包括ケアシステムによる支援について具体的に示しなさい。(4,000字程度)

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



地域包括ケアにとらわれず、まずわが国の戦後社会福祉制度の発展と、支援の仕組みの変化について押さえてください。その流れに沿って、保健医療などとの連携の必要性を確認し、地域包括ケアシステムの今日的意味を考えてください。

課題2
アドバイス

まずは在宅学修のポイントに沿って、システム構築の方法を確認してください。下記の白澤、辻の文献は事例が掲載されています。それ以外にもいわゆる「事例集」は数多く出版されています。これらを参考に、地域包括ケアシステムでの支援の実際を具体的に説明してください。地域包括ケアシステムという名称にとらわれず、受講生がかかわっている支援システムがあれば、もちろんその事例を用いてかまいません。

■評価の方法・基準

課題レポート60%、試験レポート40%

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- *1) 隅田好美、藤井博志、黒田研二編著『よくわかる地域包括ケア』ミネルヴァ書房、2018年
- 2) 白澤政和著『地域のネットワークづくりの方法』中央法規、2013年
- 3) 二木立著『地域包括ケアと福祉改革』勁草書房、2017年
- 4) 辻哲夫監修『まちづくりとしての地域包括ケアシステム』東大出版、2017年